

高畠町立小学校教育環境等検討委員会

第1回会議録

日 時：令和6年11月20日（水）午後6時30分～午後8時10分

場 所：高畠町中央公民館 201研修室

出席者：検討委員会委員15名、教育長、事務局4名

◇開会

◇委嘱書交付

教育長より委員へ委嘱書を交付

◇教育長あいさつ

本日はお仕事等でお疲れのところご出席いただきまして誠にありがとうございます。皆様には公私御多忙な中、高畠町立小学校教育環境等検討委員をご承引くださいましたこと心より御礼を申し上げます。来年9月30日まで様々ご難儀お掛けいたしますが、お力添えをよろしくお願ひいたします。

さて、本町における小中学校の教育環境につきましては、遡ること20年前の12月議会での一般質問から始まります。当時の課題は、急激な少子化に伴う小学校の統合・廃止、中学校校舎老朽化に伴う再編統合、遠距離通学児童生徒への通学バス運行、中学校学校給食でした。順次取り組んでまいりましたが、当時小学校については当面各地区に1校を継続して配置し、社会の状況の変化によっては再度検討するという添え書きがありました。20年が経過し、昨年度の町の出生数が90人、中学校卒業生が200人でしたので激減ぶりが伺えます。また、校舎の築年数が40年を超えた学校が4校あり、傷みもかなり目立ってきました。小学校は地域の文化、防災の拠点でもあり、学校と地域が相互に交流や支援を通して豊かな教育活動を展開してきました。改めて学校のあり方を巡っては、子どもたちが安全に安心して充実した学びや豊かな活動ができること、そしてたくさんの思い出をつくって卒業することが最優先だと考えています。

結びになりますが、委員の皆様にはそれぞれのお立場から、学びの場が充実して魅力ある高畠人が育っていくような小学校の教育環境についてお話しいいただきますようよろしくお願ひいたします。

◇委員並びに事務局職員紹介

各委員、事務局より自己紹介

◇高畠町立小学校教育環境等検討委員会の設置について

資料No.1について事務局より説明する。

会議は非公開とし、会議録を町ホームページ上で公開することを諮り、了承された。

◇委員長及び副委員長の選出について

事務局：委員長、副委員長の選出ですが、本検討委員会設置要綱第5条に「委員会に委員長及び副委員長を置く」、「委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する」とあります。どのように選出したらよいか、ご意見をお持ちの方いらっしゃいませんか。

委 員：事務局で案がありましたら示してもらい、お諮りしてはいかがでしょうか。

事務局：それでは事務局案としましては、委員長に江間史明委員を、副委員長に清澤穣委員を推薦いたします。

事務局：事務局案をご承認いただけの方の拍手をお願いします。 (満場の拍手)

事務局：ありがとうございます。それでは江間委員に委員長を、清澤委員に副委員長をお願いいたします。

委員長あいさつ

改めましてこんばんは。委員長を引き受けさせていただくことになりました。少子化は日本のどこでも直面する問題だと思います。人が少なくなるということはこれまで出来たことが出来なくなったりしますので、どのように最適に配慮するか問われてきます。一方でポジティブに捉えれば、一人一人に目が届くようになりますし、その強みによって可能性が広がることがあると思っています。これをどういう機会として生かすのか、皆様からのご意見をいただきながら進めたいと思います。不慣れではありますがご協力をよろしくお願ひいたします。

副委員長あいさつ

皆さんこんばんは。諸先輩方がいらっしゃる中で副委員長を引き受けさせていただくことになります。私がPTAに関わっている頃に中学校の統合の話があり、子どもが統合中学の1期生でした。その頃から小学校についてもいずれ再編の話が出てくるのだろうと思っていました。検討委員会に関わっていけるということは色々な話も聞けますし、自分の考えも言える機会だと思っています。委員長からもありましたようにポジティブに、この委員会で話していければと思っていますので皆さんのご協力をお願いします。

事務局：それでは説明に入らせていただきます。ここからは、江間委員長に進行、お取りまとめをお願いいたします。

◇説明

委員長：それでは説明に入ります。(1)小学校の現状について、事務局から説明をお願いします。

事務局：児童生徒数の推移（資料No.2）、学校施設の現状（資料No.3）について説明する。

委員長：ただ今の説明についてご質問等がありましたらお願いします。

(発言なし)

教育長：すみませんが、資料の中に誤りがありますので後ほど訂正させていただきます。

委員長：(2)小学校の教育環境に関するアンケート調査の結果について、事務局から説明をお願いします。

事務局：アンケート調査結果について（資料No.4）を説明する。

事務局：ここで資料の訂正をさせていただきます。 (資料No.2裏面について訂正する)

委員長：初めてご覧になる方もいらっしゃると思いますので、3分程度各自ご覧いただきたいと思います。

委員長：小学生以下のお子さんがいる全世帯と16歳以上からの抽出をあわせて3,000件とあります
が、その割合がわかれば教えてください。

事務局：正確な数字は今持ち合わせていませんが、小学生以下のお子さんがいる世帯が千数件でした
ので全体の約3分の1になります。

（各自アンケート調査結果に目を通す）

委員長：どなたか、ご意見等があればお願ひします。

委員：複式学級についての設問があるわけですが、知り合いの教員から複式学級はすごく大変だと
聞いたことがあります。意外にも好意的な選択が52.8%もあって、メリットというのによく分かりませんでした。学校のあり方を考えるときに、保護者や地域の方のご意見ももちろんですが、教育の場ですので先生方の授業のやりやすさや学校運営のしやすさなども考え
ていかなければいけないとスタートに当たって思いました。

委員長：問15的回答で、選択肢ア「複式学級になっても長所を生かして存続させる」が小学生以下
のお子さんがいる方といない方で傾向が違っていて、選択肢エの「学校と地域活動のつながり」に子どもがいない（地域の）方の関心が高いように見えます。通学手段や設備に配慮が
必要というのは一致しています。学校のあり方に関しては複式学級になっても維持したい
という意見が、お子さんがいない方から強めに出ていて、お子さんがいる方からはそれほど
重視しないという傾向が出ているのかなと拝見しました。ご指摘がありました複式学級が
肯定的に捉えられているのはよくご覧になっていらっしゃるなと思っていて、子どもが主
体的にならざるを得ない環境なんですね。一方が「自習」というのは誤解で、複式学級の強
みは先生がいない時に自分たちで学習ができるという環境が植え付けられているので、子
どもたちが助け合って学んでいくには複式学級の方が適した環境と言えます。実際に様子
を見てみるとお子さんの力は伸びていたり、地域の方が関わりやすくなったり、学校が与え
られた条件をどう生かせるのかというところだと思います。複式学級だと子どもたちが主
体的に良い学級を必ずしも作れる訳ではなく、先生の力量も試されるところもあります。

委員長：何かお気づきのことござりますか。

委員：統廃合を望むかどうかが知りたかったなと思いますが、そこまでは書けなかったのですか。

事務局：統合の話が先行してしまうのではないかという懸念もあり、設問は設けませんでした。

委員長：今後いつの時点かわかりませんが、たたき台が事務局から出されることになると思います。
その前に事務局に対してこういうことが大事ではないかと皆さんからいただいたことで、事
務局がたたき台を作る材料になっていくと思います。

委員：アンケート結果から感じたことですが、問5にある「一人ひとりの能力に応じた教育ができる
環境」を大事にしたいと思いますが、二井宿小学校は児童数が少ないので一人ひとりに合
った教育を受け、伸び伸びと過ごしている様子を窺うことが出来ています。ですが、体育の
授業で団体競技が出来ずにそれが運動能力の低下に繋がっているのではないかと考えた時、

問9の1学級当たりの人数は11人～25人がいいのかなと感じました。

委員長：ありがとうございました。

折角ですので、隣の方と感想を交わしていただきたいと思います。

(感想を交わす)

委員長：皆さんからのご意見を伺う時間が取れないようですが、「こんな資料をもうちょっと」ということはぜひ後で仰っていただければと思います。私はいくつか学校組織の話に関わっていますが、最近では小学校が6年、中学校が3年と必ずしも考えずに義務教育学校として9年制で考えることができます。ある自治体では4年生までが小学校で地域と密接にかかわる時期として区切り、5年生から中学にコミットしていくようにしています。どういう風にすると子どもたちにゆとりが生まれて、学ぶ環境が良くなるか制度的にデザインすることができます。制度的には出来ますがそれぞれの自治体で実際に議論していくことになると思います。小学校が6年制、中学校が3年制と固定的に考えると選択肢の幅が狭まり、残すか残さないかの議論に執着してしまいがちですが、横のつながりや、社会教育施設と一緒にするという選択肢もないことはありません。いろいろご議論いただければと思います。ここでの議論が事務局のたたき台のアイデアに繋がっていけばいいかなと思います。統廃合というと統合するか無くすかという二者択一にならざるを得ないとは思いますが、設置要綱にもあるように子どもたちにとってより良い学びの場を用意するか第2回以降議論させていただければと思います。

委員長：では、(3)今後の会議開催について、事務局から説明をお願いします。

事務局：今後の会議開催について（資料No.5）を説明する。

委員長：ただ今の説明についてご質問等がありましたらお願いします。

(発言なし)

委員長：では、事務局提案のスケジュールで進めていくことでよろしくお願いします。

委員長：本日の説明は以上になります。

事務局：江間委員長、ありがとうございました。 それでは、その他に移ります。

◇その他

事務局より事務連絡を行う。

次回会議開催日を令和7年1月14日（火）午後6時30分からとする。

◇閉会

事務局：以上を持ちまして、第1回検討委員会を閉会いたします。ありがとうございました。